上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

国際協力
人材育成センター
SHRIC

SOPHIAで高度な教養と実践力を培い、国際貢献のステージへ

国際協力、国際機関への道

FOR OTHERS, WITH OTHERS

—— 他者のために、他者とともに

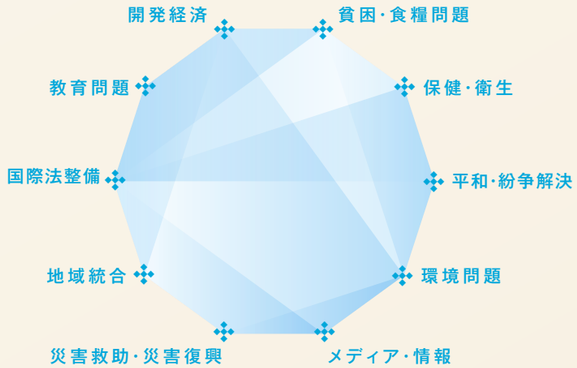
上智大学が掲げるこの教育精神は、国際協力を志す人たちに深く理解され、象徴的なマインドとして心に通じることでしょう。本学は、叡智と実践が結集された「国際協力、国際機関への道」を提供します。

国際協力の多面性

「国際協力」とは非常に包括的な概念です。解決すべき課題が、貧困問題、食糧・水問題、衛生、教育、雇用など多岐にわたる一方、その課題解決に取り組む単位も国家、国際機関、法人、企業、NGOやNPO、個人とその様態はさまざまです。
このような国際協力の多面性を整理し、自分の役割を見出すことが国際協力への第一歩といえます。まずは、国際協力の分野、構造・仕組みを整理してみましょう。

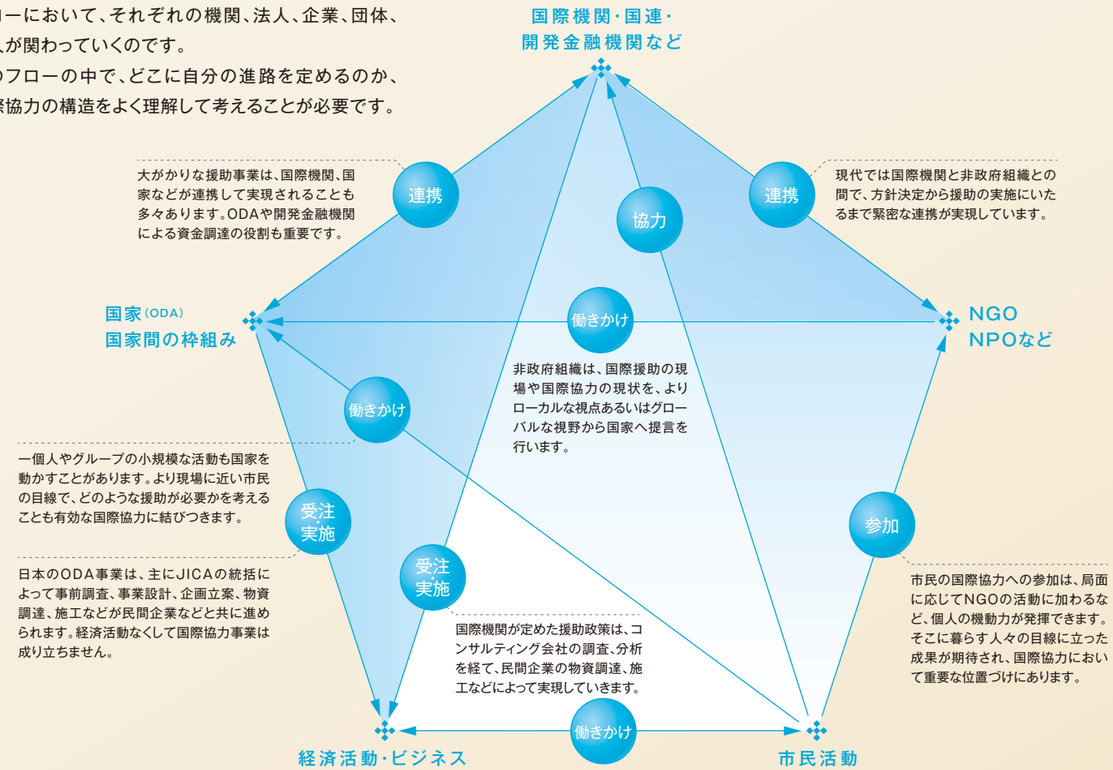
国際協力の分野

国際協力を必要とする課題は、ある一つの分野からのアプローチで解決できるものではありません。複合的な課題解決力と共に、ローカルな視点とグローバルな視野を身に付けている必要があります。例えば、貧困問題。食糧の供給を要すると同時に、持続的な解決に向けては、教育機会の提供、雇用の創出、産業の育成などに取り組むことも不可欠です。さらには、このような現状を世界に伝えるメディアの力も国際協力の一つといえるでしょう。このように、単一的な捉え方ではなく、立体的な課題の解釈の上で、自分自身が果たすべき役割を見つけていくことが肝要です。



国際協力の構造と仕組み

政府や国際機関のように、政策決定によって大きな力を動かす仕組みが国際協力には必要です。一方で、一人ひとりの草の根運動、市民目線でのNGOやNPOの活動も欠かせません。最近では国際機関とNGOやNPOとの連携が強化されており、国際協力の構造はより複雑化し、また連動しています。一例ですが、日本のODA方針によって定められた国際協力の取り組みは、それを実行するためにJICAによって企画、立案され、コンサルティング会社などの調査を経て実施にいたります。その際には企業によって物資、機器などが調達されたり、NGOが物資の配給に取り組んだりします。
このように、一つの国際協力の取り組みを実施するフローにおいて、それぞれの機関、法人、企業、団体、個人が関わっていくのです。
このフローの中で、どこに自分の進路を定めるのか、国際協力の構造をよく理解して考えることが必要です。



国際協力、国際機関をめざすみなさんへ

上智大学 学長
理工学部 教授
曄道 佳明

上智大学は「For Others, With Others」を教育の精神として掲げ、国際的視野のもとで良質なグローバル社会の形成にリーダーシップを発揮する人材を育成してきました。国際協力は、まさに私たちの教育を具現化する分野であり、これまでに多くの世界的リーダーを輩出しています。この冊子はその取り組みの体系を紹介するものです。上智での国際協力への多角的な学び、実践的学びに触れてみてください。

上智大学 国際協力人材育成センター所長
大学院グローバル・スタディーズ研究科
国際協力学専攻主任・教授
植木 安弘

「国際協力人材育成センター」は、将来国際協力を目指す学生のみなさんをサポートするために2015年7月に設立されました。センターのメンバーは皆国際経験が豊富で、国連や各種国際機関で活躍し、現在本学で教職についている人達が中心となり、さらに、アドバイザリー・ネットワークには現職の国際機関や国際協力に携わっている多くの方々が集まっています。みなさんのキャリア形成をお手伝いします。

[表紙] UN photo by 1Eric Kanalstein 2Martine Perret 3Marco Dormino 4WFP/Phil Behan 5Logan Abassi 6Albert González Farran 7Pasqual Gorriz
[本頁] UN photo by 10Martine Perret
Photo: 8今村 健志朗/JICA, 9 11飯塚 明夫/JICA, 12 13久野 真一/JICA

国際協力分野で活躍するための道が上智にある

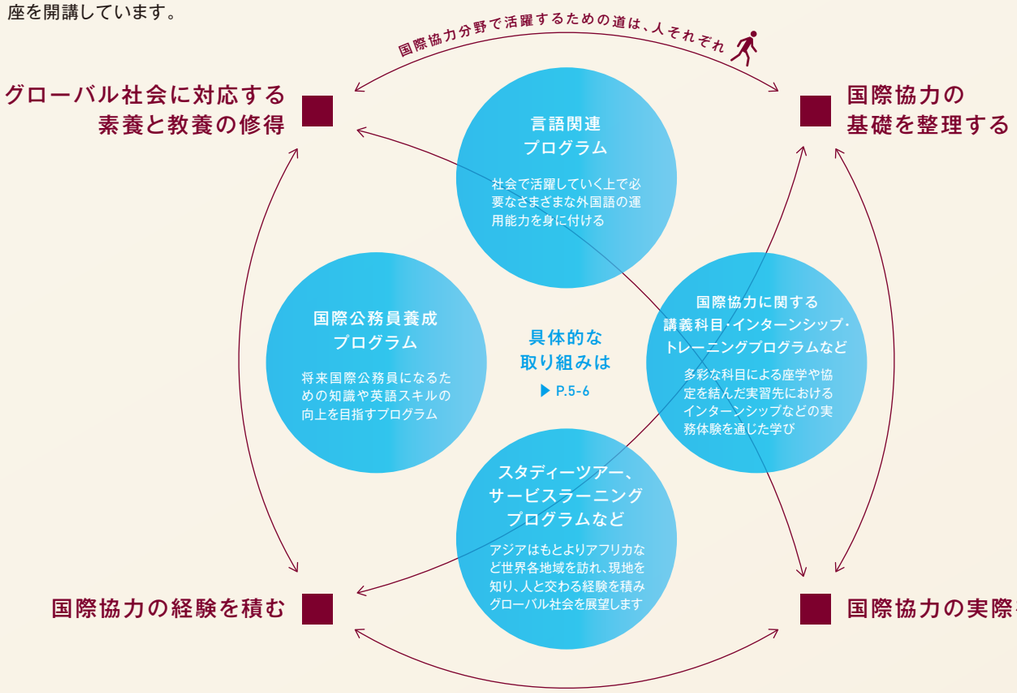
本学では国際協力への道筋として、基礎知識の整理から実務経験までのプログラムをラインナップ。
体系的でしかも、豊富なオプションが用意されています。

国際協力人材育成センターによるサポート

国際協力への道筋は、人それぞれの想いによって多様であり、その道を歩むためには、知識の体系的整理や実践的プログラムへの参加計画の立案などが必要です。国際機関やNGOの責任者など国際協力分野に携わるさまざまなアクターを招いてのキャリア・セミナーやトーク・セッションを頻繁に開催し、この分野に関心のある人たちとの交流の場を設けています。また国際公務員養成や緊急人道支援の公開講座を開講しています。

本学ならではの国際協力系機関との教育連携ネットワーク

国際協力、国際機関への道を体系的に整備するために、学外機関との連携が充実しています。国連の代表的機関WFP、UNDP、UNHCR、FAOをはじめ、アフリカ開発銀行、さらに各種法人、民間企業の協力も得て、国際協力の構造を多面的に理解する教育プログラムとして提示します。多くの卒業生が国際機関で活躍し、国際協力分野で実績を積み上げてきた本学の強みでもあります。



教育を提供する学内機関

グローバル教育センター

真のグローバル人材を養成するため、素養と教養を磨く多様な科目や海外勉学の機会を提供しています。グローバル社会の変動、発展に合わせて、教養教育の変革が求められているなか、同センターでは国際協力に必要な基礎事項を学ぶ科目から実務者によるレクチャー、研修プログラムなどを実施しています。

言語教育研究センター

本学が誇る語学教育の中心である当センターでは、多くの国際機関の公用語である英語、フランス語、イスパニア語、中国語をはじめ、22言語を体系的、レベル別に修得するカリキュラムを全学に提供しています。また、Language Learning Commons（LLC）、学習アドバイザー、外国語コミュニケーショングループ、ライティングチューターなど、語学学習の支援体制を整えています。

大学院グローバル・スタディーズ研究科 国際協力学専攻

多様化する「グローバルな課題」の解決を担う中核的人材の育成を目的として、「平和協力・平和構築研究」と「持続可能な開発／社会・教育開発研究」という2つの教育研究の柱の下で、実践型教育を意識した教員陣・教育課程の編成を行っています。教員陣は国際連合や専門的国際機関、国際開発金融機関、国際NGO、国際企業などでの実務経験が豊富な方々です。「国際協力学」の修士号が取得でき、多くの科目を平日夜間・土曜日ならびに集中講義として開講する時間割編成、「長期履修制度」を導入することで社会人を含む学びに対応しています。

▲ Language Learning Commonsの様子

▲国連Weeksシンポジウム「アフガニスタンの和平プロセスと国連の役割」

グローバル社会に対応する素養と教養の修得

国際協力を志し、それぞれの立場でその企画、立案、実施に関わり、また国際機関などで成果を挙げるためには、単一的な専門知識だけでは太刀打ちできません。高度な素養、教養が必要になります。語学力を中心としたコミュニケーション能力はもちろん、現代のグローバル社会における課題、とりわけ国際協力を必要とする複合的な課題に対しては、さらに文化、宗教、歴史、政治、経済などの知識整理と応用力の修得が欠かせません。

国際協力の基礎を整理する

今日のグローバル社会では、国際協力の多面的構造を理解することが重要だと本学では考えています。それは、
❶国際協力は複合分野にまたがる総合力で達成されるものであり、同時にその実行プロセスにおいても多分野、多機関の関与が必要となる。
❷国際協力の分野、構造を知ることで自分の果たすべき役割分担が明確になり、その進路について道筋を得やすくなる。
といった効果が見込まれるからです。断片的、部分的ではない総合力を有する国際協力人を目指してください。

▲上智大学 実践型プログラム「インド・サービスラーニング・プログラム」

▲ 国連Weeks シンポジウム「バンコク国連機関とアジア太平洋の持続可能な開発への課題と展望」

国際協力の経験を積む

個人で社会活動に参加し、弱者に手を差し伸べることも国際協力のひとつです。一方、国際機関が実施するプロジェクトに参画し、チームの一員として役割を果たす経験も是非積んでもらいたいものです。理論だけではなく、実際の現場に足を運ぶことで、国際協力の組織や現場ではどのような職種、仕事が稼動しているのか、どのような課題に直面しながら事業が遂行されていくのか、肌で感じる機会にチャレンジしてください。

国際協力の実際を知る

国際協力は、現地のニーズに応えるものであると同時に、国際社会の協調につながる取り組みでなければなりません。その取り組みが、対象となる地域や国にどのような効果をもたらしたのか、その検証も重要です。国際協力事業が、一方的な押し付けや財政的に大きな負担を強いることになることを避けつつ、一刻も早く解決すべき課題が山積しています。その実施にあたっては、取り組みの「仕組み」、「資金の拠出」、「文化・宗教・言語の壁を越えた背景理解」など、国際協力の実情として知るべき事項が多くあります。

国際協力分野について学ぶ多種多様なプログラム

国際公務員養成プログラム

「国際公務員養成コース」「国際公務員養成英語コース」「国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）」「バンコク国際機関実務者養成コース」は、将来国際公務員を志す学生や一般社会人を対象とし、基礎知識・スキルの向上を目指して構成されたプログラムです。本学国際協力人材育成センターが運営しています。

国際公務員養成コース（春期・秋期）

年に2回、春期と秋期に各々週2回、計12セッションで構成される集中講座です。国連と国連システムの組織、国際公務員人事制度などの基礎知識について学び、国連への採用プロセスや履歴書の書き方、筆記試験、コンピテンシー面接などの対策に向けた準備講座となっています。元国連事務局、ユニセフ、世銀などで人事官を務めた方々を講師に迎えています。

国際公務員養成英語コース（春期・秋期）

年に2回、春期と秋期に各々週2回、計12セッションで構成される集中講座です。授業はすべて英語で行われ、国連を中心とする国際機関で必要となる英語力の向上を目指し、文書の要約・メモの作成方法・効果的な議事録の取り方などより実践的な場面を想定した講座を提供していきます。

国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）

夏期休暇を利用し、ニューヨークの国連本部で、国連の現職スタッフや経験豊富な元職員を講師に招き、5日間の集中研修を開催します。国境を越えたさまざまな問題に対処している国連や国際機関の役割は大変重要であり、本コースではそのような機関で働く職員を目指す方々を対象に展開されます。ニューヨークで開催されるこのコースでは実際の現場を身近に感じることができ、将来のキャリアプランがより具体的になるような効果を狙っています。

バンコク国際機関実務者養成コース（オンライン講座）

本講座は、国際協力人材育成センターと本学がバンコクに設立した教育研修事業会社Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd.（Sophia GED）が共同で開催し、週2回（計10セッション）オンライン授業を行う集中講座です。主に東南アジア地域で展開している国際機関の職員が講師を務め、社会開発分野や国際教育開発・協力分野におけるさまざまな課題についての見識を深め、実務的知識やスキルを学ぶことで将来の国際機関や国際協力におけるキャリア形成に役立てることを目的としています。

国際協力人材育成センター公開講座の詳細はこちらから ▶

緊急人道支援講座

緊急人道支援に取り組むための基礎的知識やスキルを身に付け、その後のキャリアに生かしてもらうことを目的としています。春期講座では、人道支援の基礎知識を学び、秋期講座では人道支援のスキルを身に付けます。講師は、国際機関やNGO、JICA、赤十字、民間などで緊急人道支援の最前線で経験を積まれた方々です。

©UN Photo Georgina Jane Smith

ジュネーブ国際・開発研究大学院との3+2プログラム

スイスのジュネーブ国際・開発研究大学院（The Graduate Institute of International and Development Studies）は多くの外交官や国際機関職員を輩出している著名な教育機関です。本学と協力協定を締結し、学部で3（または3.5）年間学修後、先方へ進学し、2年間の修士課程で所定の成績を修めることにより、計5（または5.5）年間で上智の学士号と先方の修士号を取得できるプログラムを実施しています。

海外有力大学院への特別進学制度

国際機関を目指す場合、一般的に大学院を修了することが求められます。本学は、本学大学院のほかに海外有力大学院と特別進学制度の協定を結び、学生は、上智大学の推薦に基づき出願することによって、一般受験者より優先的に審査される、一部の費用が減免されるなどの優遇を受けることができます。

フォーダム大学大学院
（ニューヨーク）

国際政治・経済、開発を学ぶことができます。国連との連携も強く、国際機関へのアプローチとして適しています。

コロンビア大学大学院
（ニューヨーク）

教育学の名門Teachers CollegeとSchool of Professional Studiesで国際開発や国際協力等幅広い分野の学びを深めることができます。

ジョージタウン大学大学院
（ワシントンD.C.）

政治学、コミュニケーション、公共政策などを学びます。国際協力と国際機関を目指すためには必要な分野です。

ボストンカレッジ大学院
（ボストン）

教育政策や教員育成の分野において多くの人材を輩出している同大学院で、国際高等教育政策を学ぶことができます。

国際協力関連科目

基礎を学ぶ講義群

国際協力概論
ー日本による開発援助の潮流と仕組みー

国際協力・開発援助の潮流と仕組みについて理解を深めます。国際協力へのアプローチ科目です。

日本外交政策

現役の外務省職員による講義を通じ、日本を取り巻くさまざまな国際問題について理解を深めます。

グローバル化と国際貢献

現在人類が直面するグローバル化による諸問題に対する基礎的理解を目指します。

国際高等教育論①（歴史と変遷）

日本と世界の高等教育の歴史、現状と課題を通して、大学が果たすべき役割について考えます。

国際高等教育論②（国際化と国際協力）

国際化が急速に進む日本と世界の高等教育の現状と課題、国際社会の対応を理解し、大学の役割を探ります。

アフリカにおける開発援助とビジネス展開

豊田通商㈱による連携講座です。開発支援におけるビジネスのあり方を伝えます。

自主研究ー人間の安全保障と平和構築

安全保障と平和構築に関する歴史的変遷などについて知り、今後の平和構築の課題を議論します。

平和構築とメディア

現代における主な軍事・政治紛争をテーマに、その原因と解決方法を探っていきます。

国際開発金融機関入門

経済の側面からグローバルな開発課題に取り組む国際開発金融機関の特徴、役割、活動などを学びます。

持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ

SDGsの意義や課題、その進捗状況について理解を深め、未来の活動につながるような機会を提供します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT

未来に続く持続可能な発展のために果たすべき役割やその意義について、英語で考える機会を提供します。

SDGsの課題と可能性：企業と投資家の視点から

一般的な知識としてのSDGsではなく、企業・投資家という観点からSDGsを企業活動や投資の現場で実践していく際の工夫、努力、課題等を具体的に学びます。

実践型海外派遣プログラム

海外においてフィールドワークなどを通じて実践的に学ぶプログラムです。各プログラムは、本学の開講科目として取り扱われ、事前指導に全て参加し、現地研修において所定の成果を修めた者には、全学共通科目（選択科目）として単位が付与されます。

[インド]
インド・サービスラーニング・プログラム

[インド]
インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララ州を実例に

[アジア]
AJCU-AP サービスラーニング・プログラム

[アジア]
東南アジアに学ぶA／B

[ミャンマー]
ミャンマー・スタディーツアー

[東アジア]
グローバルリーダーシップ・プログラム

[カメルーン][コートジボワール]
[ベナン][南アフリカ]
アフリカに学ぶA／B

[エストニア]
エストニア・スタディーツアー：持続可能な社会構築に向けた教育の可能性

[スイス]
ジュネーブ国際機関集中研修

[アメリカ]
国連の役割と機能（国連集中研修）

[アメリカ]
多文化共生社会とリーダーシップ

国際協力に関するインターンシップ・トレーニングプログラムなど

- アフリカ開発銀行（AfDB）
- ACE（Action against Child Exploitation）
- アンスティチュ・フランセ日本
- 米州開発銀行（IDB）アジア事務所
- 国際協力機構（JICA本部・タイ事務所）
- 難民自立支援ネットワーク（REN）
- インスティトゥト・セルバンテス東京
- 国連本部とNGO・連携プロジェクト
- 駐日カメルーン大使館
- 駐日メキシコ大使館
- 日本ユネスコ協会連盟
- 駐日ブルキナファソ大使館
- Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd.（Sophia GED）

国際協力分野の“今”を知るイベント

国連Weeks

上智大学では、2014年より毎年6月・10月に、国連各機関の協力を得て、グローバル課題を考え、議論し、理解を深めるイベント週間「国連Weeks」を開催しています。「国連の活動を通じて世界と私たちの未来を考えるとともにSDGsの促進に寄与すること」をコンセプトとして、さまざまな国際機関と共催・協力の上でシンポジウムを複数開催する他、映画祭なども行うことで、見る・聴く・対話するという中身の濃いイベント週間となっています。（後援：国連広報センター）

シンポジウム「ウクライナ紛争と国連憲章に基づく国際秩序の将来」

2022年6月8日、国際協力人材育成センターの所長である植木安弘教授（大学院グローバル・スタディーズ研究科）の進行で各分野の専門家を招いてオンラインシンポジウムを開催しました。ロシアによるウクライナ軍事侵攻について、ウクライナとロシアの歴史的背景や国連外交、米欧とロシアとの分断について、また国際刑事裁判における観点、さらに日本の安全保障への影響や将来、日本や国際社会がどう向き合うべきかなど多角的な議論が展開されました。専門家の説明の後には高校生をはじめ国内外から多くの学生や一般の参加者から質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

シンポジウム「パリ協定達成に向けた脱炭素への取り組みとSDGsのインターリンケージ：グローバル・ローカルなイニシアティブ」

2022年10月18日、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）との共催でオンラインシンポジウムを開催しました。2015年のSDGsとパリ協定合意以来、企業の環境・社会問題への対応が加速しているなか、社会、経済、環境問題を包括的に捉えたSDGsの課題と脱炭素を目指すパリ協定の課題という二つの課題の関係性（インターリンケージ）に関心が集まっています。シンポジウムでは、気象予報士で大学院地球環境学研究科講師の根本美緒氏をファシリテーターに迎え、鈴木政史教授（大学院地球環境学研究科）による基調講演の後、大学の専門家や企業、自治体から担当者をお招きして実際に行われている脱炭素への取り組みとSDGsのインターリンケージや海外・国内の取り組み、将来の課題について議論しました。

国際協力における重要な国・地域の現状を知る・学ぶ

アントニオ・グテーレス国連事務総長 特別講演

2017年12月14日、本学は国連事務総長として初来日したアントニオ・グテーレス氏をお迎えし、学生と市民を対象とした特別講演会「グローバル課題～『人間の安全保障』の役割～」（Special Lecture “Global Challenges: The Role of Human Security”）を開催しました。グテーレス氏は、大学や市民社会が「人間の安全保障」についての知的な議論を続け発展させることで、世界中の多くの政府が、この概念を使って紛争予防、持続的開発、持続的平和作りというグローバルな課題に取り組むことを促すことができるはずだと、会場を埋め尽くした研究者や学生達に向けてエールを送りました。講演会は、本学の東大作教授が交渉を行い、当日の司会も担当しました。

シンポジウム「アフガニスタン人道危機と支援～農業、民間セクター、経済」

秋の国連Weeks期間中の2022年10月12日、アフガニスタン関連の専門家を招いてオンラインシンポジウムが開催されました。旧政権崩壊後のアフガニスタンで金融システム崩壊や飢餓といった危機が引き起こされた経緯、現地での課題、国際社会が行うべき持続可能な支援について活発な議論が交わされ、アフガンの「自立と安定」を支援する重要性が共有されました。

＊国際協力人材育成センター副所長の東大作教授（グローバル教育センター）が企画担当、当日の進行を務めました。

左上よりカブール平和研究所代表のナディア・ナイーム氏、元アフガニスタン担当国連事務総長特別代表の山本忠通氏、国連食糧農業機関（FAO）アフガン現地代表リチャード・トレンチャード氏、サリ・アガスティン理事（総合グローバル学部教授）、東大作教授（グローバル教育センター）、佐久間勤理事長

国際協力人材を育成する

「国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ」（オンラインによるキャリア・セッション）

国際機関や国際協力分野でのキャリアを考える皆さんへグローバルキャリアのすすめについての講演や本学アドバイザリー・ネットワークである国際機関やNGO、民間企業で活躍されている方々が、ご自身のさまざまな経験、現在の仕事内容やライフワークバランスなどについてお話するキャリア・セッションをオンラインで開催しました。

※開催時の役職を記載

［国連Weeks　2022年6月登壇者］

【1日目】

浦元 義照氏　元上智大学特任教授、国際協力人材育成センター客員所員（元UNICEF、UNIDO、ILO職員）
山下 邦明氏　元国連教育科学文化機関（UNESCO）職員、元日本学術振興会バンコク研究連絡センター長
佐藤 摩利子氏　国連人口基金（UNFPA）駐日事務所長

【2日目】

村上 由美子氏　MPower Partners　ゼネラル・パートナー（元経済協力開発機構（OECD）東京センター所長）
森 秀樹氏　世界銀行南アジア地域総局インド担当局長代行
花尻 卓氏　アフリカ開発銀行（AfDB）アジア代表事務所長

［国連Weeks　2022年10月登壇者］

日比 絵里子氏　国連食糧農業機関（FAO）駐日連絡事務所所長
山下 真理氏　国連事務総長代表 兼 国連コソボ暫定統治機構セルビア・ベオグラード事務所長
隈元 美穂子氏　国連訓練調査研究所（UNITAR）持続可能な繁栄局長 兼 広島事務所長
髙梨 寿氏　一般社団法人海外コンサルタンツ協会（ECFA）前専務理事、元国連工業開発機関（UNIDO）工業開発官

「国際機関セミナーシリーズ」No.34 欧州復興開発銀行（EBRD）キャリアセミナー

さまざまな国際機関と共同で、機関をより身近に感じ理解してもらうことを目的にキャリアセミナーを企画しています。2022年6月、EBRDの本部があるロンドンよりユルゲン・リグテリンク第一副総裁、事務局長の小口一彦氏、人事総局長のハンナ・メドレー＝ロバーツ氏を迎えてキャリアセミナーを開催しました。EBRDの紹介や国際開発金融機関に携わるためのキャリアパス、実際の応募につながる情報などについてお話をいただき、将来、国際機関や国際協力分野でのキャリアを志す学生、一般社会人にとって有益なセミナーとなりました。

©Photo by EBRD

「国連職員と話そう!」

国際協力人材育成センターでは、「国連職員と話そう!」と題して、現役で活躍中の国際機関職員や国際機関での経験が豊富なゲストを招き、これまでのキャリア形成や業務内容についての講演や参加者からの質問にお答えするキャリアセミナーを開催しています。

（写真は2022年11月8日、UNDPパブリック・パートナーシップ部長のスティーブ・ウッターウルグ氏によるハイフレックス講演の様子）

©Photo by UNDP

上智ならではの国際協力機関とのネットワーク

国際機関・国際協力系機関などとの教育連携

本学は、今日の国際協力の多面的構造を理解し実感する教育プログラムを構築するために、
多くの国際機関、国際協力機関、法人、民間企業と教育連携協定を締結しています。
その内容は、インターンシッププログラム、シンポジウムの共同開催、授業科目への講師派遣など多彩です。

国連人口基金（UNFPA）

人口と開発の諸課題、ジェンダーの平等などの解決を主たる目的とする国連機関。現代社会が直面するグローバル化の課題の中でも、人口、ジェンダーの問題は憂慮されています。

国連世界食糧計画（WFP）

飢餓問題の解決を目指す国連機関。緊急支援を行う一方で、飢餓のない未来をつくるための中長期的な支援も行っています。本学はアジアで初めて国連WFPと協定を締結し、シンポジウムやセミナー開催、学生食堂ではWFPメニューを展開するなどの啓蒙活動も行っています。

国連食糧農業機関（FAO）

国連食糧農業機関（FAO）はWFPと同様に飢餓の撲滅に取り組む国連機関です。すべての人々が栄養ある安全な食べ物を手に入れ、健康的な生活を送ることができる世界の実現を目標とし、食料生産やその分配など持続的な生活の向上を目指し活動する国際機関です。

国連開発計画（UNDP）

貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関です。「国家にとっての真の宝は人々である」という信念に基づき、人々や国々の能力を育てSDGsの達成を支援する活動を、約170の国・地域で行っています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

難民支援の問題には、紛争、迫害から自然災害までさまざまな要因があります。難民の保護、支援から恒久的な課題解決までを目指し活動する国際機関です。

国連教育科学文化機関（UNESCO）

教育、科学、文化の国際協力を通じて、平和と人類の福祉の促進を目的とします。本学の取り組みではカンボジアアンコール遺跡の保存・修復活動が有名です。

国連訓練調査研究所（UNITAR）

スイス・ジュネーブを拠点として、外交・経済発展・環境・平和・復興といった多分野において世界中で研修を実施する国際機関。日本では広島事務所を開設し、主に紛争後の復興や起業家、軍縮、リーダーシップ・エンパワーメントに関する研修を行っています。

国連大学（UNU）

グローバルなシンクタンクであり、大学院の教育機関で、本部を日本に置く。人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる地球規模の緊急課題を研究しています。本学の学生は国連大学との共同ディプロマコースに参加することができます。

アフリカ開発銀行（AfDB）

アフリカの開発支援を行う開発金融機関。国際協力における資金の動きやアフリカでの実際の取り組みを知る機会が提供されます。

経済協力開発機構（OECD）

OECDは、世界中の人々の経済的・社会的福祉を向上させる政策を推進することをその使命としています。2019年にインターンシップ派遣に関する協定を締結。本学学部生・院生を優先的に受入れていただき、キャリアセミナー等でも協力しています。

国際協力機構（JICA）

日本のODAを一元的に実施する世界最大規模の援助機関。発展途上地域では、現地の人達からJICAの取り組みについて多くの賞賛の声が聞かれます。

国際協力推進協会（APIC）

国際協力推進の諸事業を展開する内閣府の認定を受けた財団法人。この連携の下でミクロネシアからの留学生が本学で学んでいます。

国連公認NGO OCCAM

OCCAM（デジタル技術革新観測機関）はミラノに本部を置く、情報通信技術と途上国支援問題を研究する国連経済社会理事会、広報局公認のNGOです。

国連アカデミック・インパクト

国連広報局による国連と高等教育機関との連携を促すプログラム。本学は、人々の国際市民としての意識を高め、平和、紛争解決を促し、貧困問題に取り組み、持続可能性を推進することなどを謳っています。

国連グローバル・コンパクト

各企業・団体が、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加するプログラム。その理念は人権の保護、環境への対応などの活動で具現化されます。国連Weeksでは、本学と共催イベントを継続して実施しています。

米州開発銀行（IDB）

中南米・カリブ加盟諸国の経済・社会発展に貢献することを目的とする国際金融機関。本学とIDBによる共同研究やシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップ実施などの分野で連携を強化していく予定です。

日本ユネスコ協会連盟

日本国としてUNESCOに加盟する以前に、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々によって設立された団体です（前身は「日本ユネスコ協力会連盟」）。本学と同団体は共同して国際協力および平和構築のための社会貢献活動を行っていく予定です。

アジア開発銀行（ADB）駐日代表事務所

アジア開発銀行（ADB）はアジア・太平洋諸国の経済・社会開発の促進を目的とする地域開発銀行です。本学との教育連携ではシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップなど訓練機会の提供、知識共有活動を行っています。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

「子どもの権利」のパイオニアとして子ども支援活動を専門に行う、子ども支援専門の国際NGOです。日本国内では貧困問題解決や虐待の予防などに向けた事業や東日本大震災や熊本地震における緊急・復興支援を通して「子どもの権利」を実現する活動を行っています。

国際協力分野で活躍するアドバイザリー・ネットワークがあなたの将来について助言します。

国連食糧農業機関（FAO）
駐日連絡事務所長
日比 絵里子さん

国連キャリアはひとつの「手段」

世界の飢餓や栄養不良。私が上智在学中の1980年代にも国際社会の大きな課題として注目されていました。何十年経った今日でも飢餓や栄養不良の問題はなくなるどころか、むしろますます深刻になる一方です。飢餓や栄養の問題に取り組む組織は国連内ではFAO、国連世界食糧計画（WFP）、国際農業開発基金（IFAD）、国連児童基金（UNICEF）、世界保健機関（WHO）などがあり、政府機関やNGO、大学研究機関などを含めると実に多様な組織が存在します。私自身、大学では食料問題に興味があったのですが、先に国連人口基金（UNFPA）で経験を積んでからFAOに入りました。国連でのキャリアはそれ自体を最終目標とするよりも、目標を実現するための「手段」として、自分の関心やニーズに合わせ現実的に利用するのがおすすめ。他でキャリアを積んでから国連に入るのも、国連を踏み台にして外でのキャリアを後押しするのもあり。キャリア形成は柔軟にいきましょう。

PROFILE
国連経験は27年超。1995年UNFPA本部にJPOとして赴任後、ウズベキスタン事務所、人道支援室、アジア太平洋地域事務所を経て、FAOに異動。本部戦略企画室、シリア事務所長、大洋州事務所長として勤務後、2020年9月より現職。

GR Japan
シニアコンサルタント
（公共政策）
浦元 義照さん

弱者との出会い－国連との出会い

2年間暮らしたガーナで出会った人々は国際協力をキャリアとするきっかけになった。半世紀も前になるが、首都アクラからクマシを経て数時間北へ車で走るとそこは広大なサバンナだ。雨季に突然大粒の雨が降り落ちると、子どもが満面の笑顔を浮かべ飛び跳ねる。そして赤い雨水が大地を覆う。乾燥と熱気のサバンナで農耕をする人々は貧しかった。サハラ以南のアフリカ諸国は独立後も未だ100人に40人以上が貧困層で基本的な医療保健や教育は満足できるレベルではない。なぜ未だあの笑顔を満面に浮かべた子どもたちに明るい将来図が描けないのか?SDGsは貧困と格差に喘ぐ10数億人の弱者の夢だ。私はそう思いながら40年近くアジアとアフリカの開発現場で働いた。国連職員に必要なのは熱意、専門的知識と英語といわれるが、私の原動力は弱者に対する尽きない興味と探究心であり、国連でのキャリアを支えたのは現場で勇気をくれたかけがえのない人たちとの出会いだった。国際機関に就職を希望する方々は、まずは自分が関心を抱く地球規模課題を見つけることが重要。また課題を現場で体験することも必要だ。国際機関は志の高い若者を探している。

PROFILE
国際協力に40年間にわたり従事。1978年より国際連合児童基金（UNICEF）に勤務。日本兼韓国の代表、東ティモール特別代表を含め開発現場に25年。2007年国際連合工業開発機関（UNIDO）事務局事務次長、2012年から国際労働機関（ILO）アジア太平洋地域総局長を2年半務めた。2015年上智大学特任教授に就任。2023年2月より現職。

国連訓練調査研究所
（UNITAR）
持続可能な繁栄局長兼
広島事務所長
隈元 美穂子さん

激変の時代だからこそ国際協力は必須、若者の参加は欠かせません

皆さん、こんにちは。国際連合に勤務して約25年が過ぎようとしています。これからの将来を担う皆さんに、ぜひ国際問題や国際協力に興味を持っていただきたいと心から思っています。国連を含む国際機関の仕事はとても多岐にわたっています。貧困、教育、経済、環境問題、気候変動、平和、ジェンダー、保健衛生、デジタル技術など非常に多彩です。そして今後も時代の流れに沿って新しいグローバル課題が生まれてくることは容易に想定できます。国境を飛び越えて、世界の人々と一緒にグローバル問題に取り組んでいく。決してすべてが万事いいことだらけではありません。グローバル課題は問題が多く、いろいろなハードルが存在します。しかしながら、このような複雑かつ広範囲な問題の解決のために、さまざまな国籍や背景の人々とチームを組んで取り組んでいく国際協力という仕事は、何事にも代えがたく、人生をかけるに値する仕事だと思っています。ぜひ、みなさんにも国際問題、国際協力に興味をもっていただきいろいろな事を学んで、考え、行動に移していってもらえたらと心から望んでいます。

PROFILE
九州電力勤務を経て、国際連合での勤務は25年に及ぶ。その間、国連開発計画（UNDP）ニューヨーク本部、ベトナム事務所、サモア太平洋地域事務所、インドネシア事務所にて活動。2014年より国連ユニタール広島事務所長、2019年7月より持続可能な繁栄局長。

上智大学 国際協力人材育成センター アドバイザリー・ネットワークについて

国際協力人材育成センターでは、国際協力分野で活躍されている有識者をアドバイザリー・ネットワークのメンバーとして組織化しています。上記の3名をはじめ、国際機関、NGO、民間法人など多種多様な所属や経験をお持ちの方々から協力を得ています。具体的な活動としては、国際協力分野での活躍を目指す若者へのキャリア支援を行います。また、直接有識者の方と話すことができ、国際協力分野における貴重なロールモデルと出会う機会となる交流会も、定期的に開催していく予定です。

国際協力、国際機関で活躍する先輩たち

民間での経験が今の仕事にも活かされている

独立行政法人国際協力機構（JICA）
審査部 次長
馬杉 学治さん
1993年 経済学部経済学科 卒業

卒業後は都市銀行に就職。そこから外務省に出向し、バングラデシュへ出張した際に貧富の差に衝撃を受け、自分にできることを求めてJICAに転職。国連開発計画（UNDP）本部勤務も経て、最近まで駐在したヨルダンでは経済財政改革を支援。政府や国連・欧米ドナーとも対話しながら開発協力インパクトの最大化を促しました。現在は途上国向け民間資金との協働など再び金融の仕事に携わっており、これまでの民間・政府・国際機関で得た各視点と経験が仕事に役立っています。国際協力へのエントリーポイントは多様です。そして勉強したこと、経験は必ず次に活かすことができます。少し回り道でも多くのことに関心を持ち、何でも貪欲に吸収していけば道が開けるでしょう。

チャンスを生かして夢に到達して下さい

外務省総合外交政策局
国際機関人事センター
課長補佐
中野 美智子さん
1996年 外国語学部
ドイツ語学科 卒業

中学から外交官に興味を持ち、大学では国際関係論の副専攻を履修して、将来開発協力に関わりたいと強く思うようになりました。卒業後外務省に入り、ドイツでの研修、勤務、外務本省での日独外交、アジアの開発協力、障害者権利分野での勤務を経て、ラオスで広報文化外交に従事しました。現在本省の国際機関人事センターで、日本の若者が国際機関での就職を目指す契機となるよう広報他の業務を行っています。国際協力の道は、分野横断的な業務、専門を極める業務等さまざまで、それぞれに魅力があります。留学、インターン、セミナー等の機会や情報は上智に豊富にありますので、これを活用しない手はありません。自ら参加、体験し、人と会い、語ることでその先に進む新たなインセンティブが生まれます。是非チャンスを生かして夢に到達して下さい。

恩師に恵まれたおかげで、国連の仕事の基礎力が培われた

国連コソボ暫定統治機構セルビア・ベオグラード
事務所長兼国連事務総長代表
山下 真理さん
1988年 法学部国際関係法学科 卒業

子ども時代をドイツやインドで過ごした経験から、高校生のときに将来は国連で仕事をしたいと思うようになりました。上智大学では国際政治学の猪口邦子先生、のちに国連難民高等弁務官として活躍された故・緒方貞子先生などの恩師に恵まれ、国連で仕事するために欠かせない基礎力は四谷の4年間で培われたと言えるでしょう。また、英語でアカデミックな文章を記述したり、プレゼンテーションをするスキルも上智大学で徹底的に鍛えてもらいました。国連の仕事に最も必要なのは「情熱」です。ぜひ勇気を持って、世界に貢献できる仕事に挑戦してください。専門分野の知識や語学力はもちろん必須ですが、それ以上に「国連で働きたい」という強い意志が原動力となるでしょう。

常に現場を歩き、弱い者の立場に立つということ

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン代表理事
Asia Pacific Alliance for
Disaster Management CEO など
大西 健丞さん
1991年 文学部
新聞学科 卒業

組織を動かすための資金調達と人材の確保が私の大きな仕事です。国際協力から、過疎地の再生や動物福祉まで、最近は活動の幅が大きく広がっているので、組織の形態もそれに合わせて変化させています。在学中、ボネット神父や故・村井吉敬先生のゼミで影響を受け、国際協力分野を目指すように。「常に現場を歩け、弱い者の立場に立て」と言われ続けたことが、今の仕事につながっている気がします。国際関係だけでなく、自然科学から人文科学まで幅広く学びました。世界のNGOの中には、国連機関の予算を凌駕するような規模の団体も出てきています。国際協力を志すみなさんは、国連だけでなく幅広い組織・団体を見て、今後伸びていく組織形態や事業形態を見極めて進路を選ぶことを勧めます。

途上国について多くのことを恩師から学ぶことができた

独立行政法人国際協力機構（JICA）
ジェンダー平等・貧困削減推進室 副室長
國武 匠さん
2006年 外国語学部英語学科 卒業

アフガニスタンや国連食糧農業機関（FAO）での勤務、世界最大の貧困人口を抱えるインドの農業振興や森林管理事業に携わってきました。現在は様々な開発事業でジェンダー平等を進めるための活動や、貧困層向け金融サービスの強化に取り組んでいます。
上智大学では英語学科に入り国際関係論を副専攻として選んだのですが、そこで出会ったのが都市の貧困問題を研究されている下川雅嗣先生*でした。先生から、途上国と日本との関係について多くのことを学び、私が今取り組んでいる仕事の基盤ともなっています。異なる考え方や価値観を理解し尊重しようとすることが、海外で働く中で信頼関係を築く方法だと思います。ぜひ学生時代にいろんな経験をして、多様な価値観に触れてください。

＊現総合グローバル学部教授

終わりなき探求心を持って

国連世界食糧計画（WFP）
キスマヨ事務所長（ソマリア）
古田 到さん
1996年 外国語学部英語学科 卒業

国際協力の道を志したのは「一つでも多くの国を訪れたい」と、「人を支援する仕事がしたい」という二つの強い思いを叶えられると考えたからです。現在、ソマリアにて、食糧支援をはじめとした数々のプロジェクトを運営しています。先進国のように設備が整っていない途上国の環境に慣れていくことや、人々の多様な感覚に戸惑いながらも理解すること、試行錯誤を通して現地の政府や団体と粘り強く交渉することは当然ながら一朝一夕ではできません。まずは学生時代にどんな形でも良いから世界に飛び出してみて自分なりのやり方を模索してほしいです。ずっと探究心を持ち続けてください。

学生時代に受けた刺激や学んだ基礎知識が将来キャリアの糧になる

赤十字国際委員会（ICRC）
イエメン代表部保護部次長
淡路 愛さん
1994年 法学部
国際関係法学科 卒業

学生時代から国際情勢に関心が強く、卒業後は通信社に就職し、国際ニュースの取材に携わった後、ICRCに転職。ICRCでは紛争地で、国際人道法違反の事例を調査して紛争当事者の軍や武装勢力と対話したり、一般市民の生活を守る支援を行ったりしています。上智大生時代に受けた刺激や国際法の基礎知識がいつも自分のコアにあり、無意識に今のキャリアに導いてきました。通信社のニューヨーク特派員として国連本部担当になった時、国際政治学の猪口邦子先生がジュネーブ軍縮代表部大使当時に取材で再会した時やICRCが学生時代に夢中になって勉強した国際人道法の番人的な組織であると知った時も不思議な縁を感じました。ぜひ自分の足や目で事実を確認し、人に会って話を聞く体験を大切にしてください。その過程で育んだ感性がのちにキャリアの糧になります。

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学公式HP　国際協力人材育成センターHP

https://www.facebook.com/SophiaHRIC/
@SHRIC2015　@shric_sophia

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
［国際協力人材育成センター（2号館1階）］ TEL：03-3238-4687
［入学センター（12号館1階）］ TEL：03-3238-3167　FAX：03-3238-3262

2023年3月／国際協力人材育成センター